

＜県研究主題＞

生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善

提案 1

提案者 納屋 和幸（相模原地区）

＜研究主題＞

道徳的実践力を高める道徳の評価の工夫

1 提案内容

(1) テーマ設定の理由

人は自ら成長を感じた時に意欲が湧き、道徳的実践力が高まる。生徒が自分の心の成長を自覚できる評価とは、どのようなものか。「心の成長」を実感できるような評価について考えたい。

(2) 研究内容

研究内容として3つの取り組みが挙げられた。

- ①「学校の教育活動全体を通じて道徳的心情を養う道徳教育の実践」ということで「一人一人を大切に、よりよい集団づくりを心掛ける人になるようにする」を意識して、学年ごとに「人間関係づくりプログラム」を計画的に、道徳・学活・総合的な学習の時間を使って行う。また、教科教育においても、道徳の時間と関連させた年間指導計画を作って、実施している。
- ②「道徳教育における指導と評価の一体化を図る取り組み」については「計画—実践—評価」の繰り返しの中で、「次の指導に役立つための評価」を意識した。その結果、生徒を見る教師の目が変わった。実践の例として、1年生5月の校外学習後にエンカウンター『友達のいいとこさがし』を行い、道徳教育の内容2-(5)に関連させている。評価実践としては「学級通信」「学年通信」、読み物資料を使った道徳の授業後の感想文を用いた。『友だちのいいとこさがし』の結果は「学級通信」に載せたり、校外学習で生徒が活躍したり、成長している姿を学年通信で取り上げて、評価とした。学級通信を読む生徒たちの表情や、保護者からの反応などに、生徒の自己肯定感につながる手ごたえを実感している。授業後の感想文は、ねらいに迫っている部分、よく考えていると感じられる部分、踏み込んで聞いてみたい部分にアンダーラインを引いて返している。
- ③「生徒の成長を実感できるような道徳評価の工夫」については、「班ノート」（班で毎日）・「週日記」（個人で毎週金曜日）を行い、継続している中で生徒のコメントの質や量に変化が見られ、心の成長をみることができる。生徒のコメントに教員が返事を書くことが評価になり、指導へとつながっている。

(3) 研究の成果と課題

評価を意識することで、教員と生徒に変化が見られたことが成果として挙げられる。まず、教員の変化としては、道徳の授業では、ねらいを意識しながら、生徒をよく見、変化を見逃さないよう、意識するようになった。また、道徳の時間以外でも班ノートや週日記などの実践を通して、生徒の状態を知り、学級経営に生かせるようになった。生徒の変化としては、評価を通じて生徒の心の成長、生徒同士のつながりがみられるようになった。今後も「指導と評価の積み重ね」を大切にしたい。

他方、課題としては3年間を見通した評価計画・教科化にともなう評価方法の工夫・道徳的

実践力を育てる評価の更なる実践が挙げられる。3年間を見通した評価計画とは、1年後あるいは3年後の生徒の姿、どんな人間に成長してほしいのかという見通しをもった評価計画である。これらの課題に対して全教員で取り組んでいくことが大切である。

(4) 終わりに

道徳の評価とは特別なことではなく、普段多くの教員が行っていることであると考え、今後も道徳の評価のあり方については研究し、教員の意識を高めていく必要があるだろう。「評価は生徒をほめるチャンス」と捉えていきたい。

2 協議内容

(1) 協議

- 「班ノート」「週日記」の教員の書き込みが温かく、量も多いので生徒の意欲につながると思う。コメントの書き込みについて、発表者は土日に行うということだが、時間確保が難しい。しかし、実践してみたい活動だ。
- 評価には「道徳の時間の評価」と「道徳性の評価」の二つの問題がある。そして、通知票・生徒指導要録への記入はどうするのかについても今後の課題である。どちらにしても、生徒の日常の記録を残していくことは大切だ。
- 「道徳性の評価」となると、学級担任だけでなく、委員会や部活動、清掃指導など、教育活動にかかわる様々な立場の、多くの教職員と連絡を密にして学校全体として行っていく必要がある。→職員室にポストをクラス分用意し、生徒のよいところを見たり、気づいたりした教員が、その都度メモして投函する、という方法を実践している学校もある。
- 『友だちのいいとこさがし』は年3回、校外学習や学校行事の後に、同じ書式の用紙で学校全体で実施している。3回を通して表れた変化も評価することができる。

(2) 指導助言

道徳の学習指導要領解説を、とにかく、必ず読むこと、必須であることを強調する。

今回の発表の中でエンカウンターが取り上げられていたが、道徳の教育内容、価値としっかり向き合わせる時間にする中で「道徳」としたが、基本は読み物資料『きらめき』がメインであることを確認したい。また、様々な教育活動の場面で指導者が、ねらいをしっかりと意識し、24項目ある道徳的価値のどれについて自覚を深めさせたいのか、教員が意識して取り組むことが大事である。

また、評価については、今回の発表では、道徳の授業、道徳以外の活動の中で、生徒が書いた文の、道徳的価値に迫るところにアンダーラインを引くことやコメントを書くことで評価としていた。評価においては、別の考え方として、書いたものではなく、生徒が話している姿で変容をみとる、また、道徳の授業1時間単位ではなく、学期あるいは年間というスパンで生徒の変容をみとるという考え方もある。また、学級通信ではプラスの内容の意見ばかりを取り上げがちなので、よい考えしか求めていないというメッセージを生徒に与えてしまうという意見もある。

3 まとめ

今回の発表からは「認め、励まし続けるのが評価である」というメッセージが強く伝わってきた。そして、どこを認め励ますのかは、道徳の教育内容、価値項目に触れる部分である。学習指導要領解説道徳編という基本を常に意識して、指導と評価をすることが重要である。

＜研究主題＞

教科や他の教育活動との関わりを生かした道徳教育の研究

～心をつなぐ愛言葉 持続可能な指導・実践を目指して～

1 提案内容

厚木市立依知中学校では、急速に変化する社会の中で、自信をもってたくましく生きていく力、自己との対話、他者との対話ができる生徒の育成を目指し、「教科や他の教育活動との関わりを生かした道徳教育の研究」をテーマとした研究を行っている。

(1) 「心をつなぐ愛言葉コーナー」の設置と授業実践

道徳の時間において、生徒が出した意見の中から、学級において「これからも大切にしていきたい言葉、心に留めておきたい言葉（愛言葉）」を掲示するコーナーを設置し、道徳の時間ごとに一つずつ貼っていく取り組みを行っている。授業実践においては、次の①～④を工夫した。

- ① 資料には、目指したい生徒像である自己や他者との対話ができる生徒を育てるために有効であるとの仮説から、モラルジレンマを含む題材を取り上げた。生徒たちが自分の考えを活発に発言する様子が、授業風景の動画にも表れている。
- ② 一人ひとりの考えを明確にできるよう、ワークシートにどちらを支持するかを示せるようにした。その際、単に二者択一でなく、それぞれの考えを4つの段階に区切り、微妙な判断の強弱を表現できるよう工夫した。また、自分の考えを表明する工夫として、ネームプレートを用い、黒板に書かれた枠に貼り付けた。
- ③ 討議を重ねるうちに、自分の考えが変化したかを確認できるようワークシートを工夫した。また発表する際、ネームプレートを動かすことで他の生徒に理解されやすいようにした。
- ④ 授業の最後に今回の「愛言葉」を選び、授業を終了した。

(2) 「愛言葉」のふり返し指導実践例

- ① 数学の1時間の授業を実践例として、教室に掲示してある「愛言葉」をどのような場面で活用するかを示した。
- ② 「愛言葉」のふり返し指導として、どのような場面でどのように指導したのかを教師相互で共有するためのカードを作成し、効果的な活用を研究した。

(3) 生徒会活動との連携実践例

- ① 生徒集会での取り組みとして、生徒会本部が行っているハートウォーミングキャンペーンの2月の強化月間において、「愛言葉」を組み入れた寸劇を行った。
- ② 三年生を送る会において、各クラスの「愛言葉」から後輩へのメッセージとしてふさわしいと思うものを1つ選んで送る取り組みを行った。

(4) 研究の成果と課題

- ① 「心をつなぐ愛言葉コーナー」の設置と「愛言葉」のふり返し指導については、学級内にコーナーを設置し、視覚化することにより、道徳の時間に出てきた言葉の意味を、様々な場面でくり返し指導することができるようになった。また、授業の中では漠然としかとらえられていなかった価値が、実際の生活や活動場面にどのように位置づけられているかを生徒が再認識する機会とすることができた。

さらに教員にとっては、様々な場面で生徒の道徳性の自己評価を促すきっかけとなり、長い目で生徒を見守り、生徒個人や学級集団としての成長の姿を適切に評価できる場面が増えるという変化をもたらした。

課題としては、毎回の授業で選ぶ「愛言葉」の選び方である。生徒に任せる時と、教員が意図的に選ぶ時をどのように見定めていくか模索中である。

- ② 生徒会本部が行っているハートウォーミングキャンペーンとの連携については、生徒の会話の中に「ハートウォーミング」という言葉が自然に使われていることに成果を感じている。また、寸劇で取り上げた「ありがとう」という言葉も、以前にも増して耳にするようになった。本校のよき伝統として定着させていきたい。

三年生を送る会での「愛言葉」の中から後輩へのメッセージについては、経緯を知らなければよくある言葉と受け止められるのかもしれないが、本学級の生徒の心に刻まれた言葉として後輩に送ることができたと感じている。

2 協議内容

- (1) 各教科における道徳教育として、英語では異文化理解、国語では教材の内容と道徳の内容項目が密接に関連しているものが多い。音楽では、合唱や合奏を完成させていく際の話し合いに協力や集団生活の項目を意識している。
- (2) 教科や学校行事を含む学校教育全体で行う道徳教育では、指導する教員自身が道徳の内容項目や道徳的な価値についての意識を高く持ち、活動の計画や生徒への指導を行うことが大切である。

3 まとめ

- (1) 道徳教育の充実を図り、生徒の心を育てることで、学校への苦情や生徒指導的事案が減少したという例を聞いたことがある。
- (2) 依知中学校の道徳の時間では、話し合い活動が活発に行われており、生徒同士の交流によって一人ひとりの考えが深まっていた。
- (3) 道徳教育と、道徳の時間の目標の違いを押さえておきたい。道徳教育では、教育活動全体を通して道徳性を養うので、行動を伴うことも含まれている。道徳の時間においては、道徳教育の要として計画的、発展的に補充・深化・統合を行い、道徳的な内面的な資質を養う。
- (4) 道徳の時間では、即効性を求めない。今回の「愛言葉」の取り組みは、掲示を意図的に行い、子どもの心にとどまるようにすることで、道徳の時間で得たものを持続させるというよさがある。
- (5) 各教科等における道徳教育では、授業などの生徒との関わりにおける教師からの「感化」ということをしっかりと意識していきたい。教員が生徒を人間として尊重する態度から、生徒が他の人を尊重することを学ぶというのも一例である。
- (6) 今回の提案は、生徒会活動のハートウォーミングキャンペーンの取り組みからすべてがリンクしている。目指したい生徒像を育成するための方向が、具体的に示されていることで効果を上げていると考えられる。
- (7) 生徒のよりよく生きたいという願いを大切にしていきたい。